

IV-93 陰影景観の固有性に関する研究（1）

－「陰翳礼讃」に現れる日本の陰影空間－

京都大学工学部 正 員 佐佐木 綱

京都大学工学部 正 員 ○川崎 雅史

京都大学工学部 学生員 堀 秀行

1. はじめに

景観に必然的に付随する陰影は、景観の本質的な部分ではなく、随伴的なものであるにもかかわらず、その景観の印象的な高まりや興行きを増すことが指摘されている。本研究では、人々が景観を鑑賞するという景観論的な視点を基本に、陰影が現象として成立している景観を陰影景観と定義し、その概念の基本的な整理と陰影をテーマとして扱った文学作品「陰翳礼讃」¹⁾に現れる日本的な陰影の美意識の抽出を行った。

2. 陰影景観の基本構成

景観を構成する要素の一つである陰影を周囲の景観と切り放して、陰影のみを対象とすることは、人の意識の性質からも不可能である。また本研究で対象とする景観は、景観の中で陰影に意識が着目した折の意識の領域的な景観であるから、陰影景観と定義した。陰影景観の基本的な構成を景観把握モデルとして図1で定義する。構成要素は次の5つである。

- ①光源 : 太陽、月、照明
- ②主体 : 陰影の輪郭を作る光の被写対象物
- ③スクリーン : 陰影の映る被写体
- ④陰影 : 陰影の視覚現象
- ⑤視点場 : 陰影景観の鑑賞場

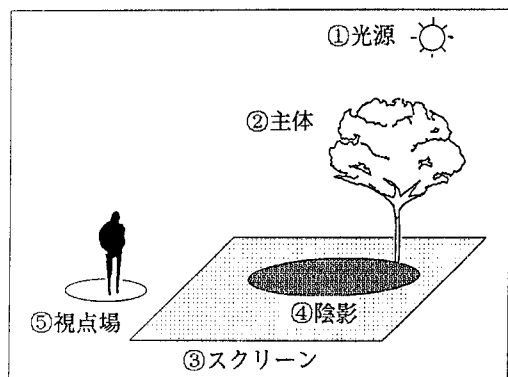


図1 陰影景観の基本構成

陰影景観は、これらの要素の変化要因（季節・時間による光源の変化、主体の移動変化、被写体の反射・屈折、視点場の見え）の組合せの中で、総合的な現象として成立している。

3. 陰影景観の基本類型

日本国語大辞典から抽出した比喩的な意味を除く「かげ」の意味を、陰影景観の現象に置き換えて、それぞれ命名すると、次のような基本類型が得られ、これを図2に示した。

- ①「光どり」-地(スクリーン)が闇で、日・月・灯火などの光によって明るく浮く部分
- ②「影どり」-物体が光を遮って、後方にできる暗い部分
- ③「陰・蔭」-ものに覆われた薄ぐらい背面・後方の場所
- ④「鏡映り」-鏡のように水面にうつる部分

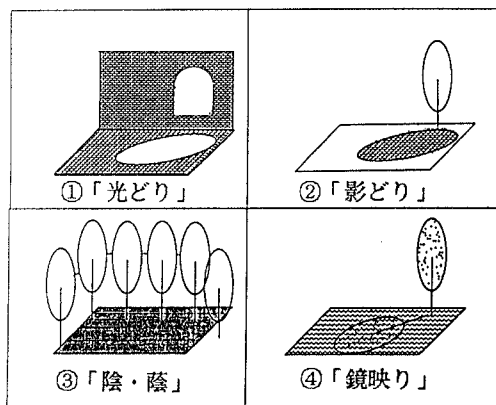


図2 陰影景観の基本タイプ

4. 日本の風土における陰影景観の考察

(1) 日本の風土における陰影

日本は、年間を通じて降雨量が多いために、湿気を多量に含んだ空気中を通る太陽光線は、欧州と比較して強くもなく弱くもない「程よい日照」²⁾である。また、日照時間も長く、冬も暖かく明るい日が続く。このような気候的風土の中で、日本の伝統的

建築では、基本的には、自然との結び付きを失うことのない開放的な空間が発達し、その中で「外光」を光源として取り入れることのできる仮設的な工夫、すなわち軒の出、庇、簾、障子、明り窓などが発達した。

(2) 日本の伝統的空間における陰影の美の演出

「陰翳礼讃」(谷崎潤一郎著)に見られる日本の伝統的空間における陰影の美の演出方法及び演出方法の対象物を景観構成の視点から整理する。

①光源・採光の演出

a)「陰的な視点場における薄明りの情緒性、心理的な安定」

一薄明りの安寧:採光による演出

敷地の裏や奥にある人目のつかない陰的な空間を、窓外の庭の景色への視点場とし、薄明りの光(障子を通した自然光)によって情緒的な連想の中へ引き込み、心理的な安定効果を引き出す。 Ex. <厠>

b)「採光周辺における明暗の境のつかない朦朧たる限」

一朦朧たる限:採光周辺の部分的影による演出

虚無の空間に対し朦朧たる限を生むようにし、それにより生じる陰翳の世界に幽玄味を演出する。

Ex. <書院の障子><床の間>

②スクリーンの演出

c)「柔弱な光と柔らかいスクリーンによる繊細美」

一柔弱な光の軌跡:被写体の吸収的素材による演出

軒や障子を通して力のない柔弱な光が、座敷の弱い色の反射率の少ないスクリーンにとりついて、なんとかその軌跡を残している繊細な陰影の美。

Ex. <砂壁>(座敷)

d)「陰の中で輝くスクリーンに映るゆらめきの光」

一陰の中のゆらめき:被写体の反射的素材による演出

日常的な生活物品が、陰の中では、効果的なスクリーンとなって、変化のある蠟燭や灯明の光をより強調して映す神秘的な陰影の美。 Ex. <漆器>

e)「金箔地による全体照明」

一全体照明:被写体の反射的素材による演出

わずかな灯具の光を金箔地による反射によって全体照明に変え、人工光をも自然光に近づける工夫をし、薄命の世界を演出する。 Ex. <金襴・金屏風>

③主体とスクリーンの関係性

f)「床うつりにより引き立つ軸物と座敷」

一床うつり:景観要素の陰影との調和による演出

景観要素(軸物、飾り花)の持つ古色と床の間の暗さが調和、すなわち床うつりが良ければ、軸物と座敷が相互に効果を及ぼし合い、同時に引き立つ。

Ex. <掛軸・飾り花>

④陰影のコントラスト

g)「醜いものを隠し美しいものを強調」

一隠しと強調:周囲のぼかしによる演出

陰翳を与えることにより醜いものを目立たないようにし、また美しいもののみを残し、周りを暗くすることによりその美しさを強調。

Ex. <厠><歌舞伎><文楽(女の人形)><女>

5. おわりに

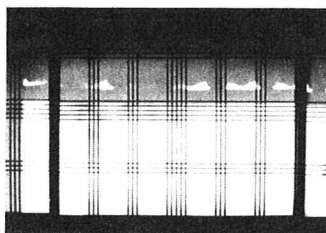
本研究では、陰影景観の概念の基本的な整理と、文学に現れる日本的な陰影の美意識の抽出を行った。

将来、陰影を意識した景観づくりを目指すために、陰影と風土との関連性や装飾的な意味について明らかにすることは意義あるものと考えられる。

[参考文献]

1) 谷崎潤一郎随筆集「陰翳礼讃」pp. 173-221, 岩波文庫, 1985.

2) 宮川英二; 風土と建築, 彰国社, 1979.



↑ 朦朧たる限<障子>



床うつり
← <掛軸>

陰の中で輝く
スクリーンに映
るゆらめきの光
<燈燭台> →

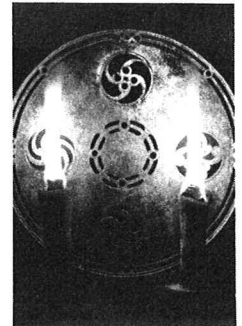


写真1 日本伝統建築における陰影の美の演出方法